

特集

商工会青年部

&

町議会

これからの瑞穂町を引っ張っていく
商工会青年部の皆さんにお集まり
いただき、お話を伺いました。

仲間と一緒に

町をイメージアップできる事業をやりたい

Q 瑞穂町の魅力ってどんなところですか？

―自然が豊か。動物や昆虫もいるし…昔はよく虫捕りしたなあ。

―御茶所…東京狭山茶は町の誇れるブランド。

―六道山や狭山池の桜は本当に綺麗ななあと思う。

―花多来里の郷。観光で訪れる人も年々増えてきているから。

―人とのつながりが温かく、子どものことを周りの人が知ってくれている。とても安心。

―八高線の便数も増えてきて、昔よりずい

ぶん便利になった。

Q どうして青年部に入ったんですか？

―誘ってくれた先輩がとても面倒見のいい人。

―商売をしている親の姿を見ていたから。消防団に入らなかつたので、青年部に入って町の活性化に貢献したかった。

―知らない間に入ってた。

Q 青年部の活動において、やりがいだったり苦労していることはありますか？

―瑞穂町を良くしようということがやりが

Q 子どもの頃は何になりたかったんですか？

―サッカーの選手。

―お父さんと一緒にガソリンスタンド屋さん。

―スキーのインストラクター。家業は継ぎたくなかった。

Q どうして家業を継いだんですか？

―ずっと父親の背を見て育ったからかな。

―進路をまじめに考えたとき、親とたくさん話ができただけ。その中で、家の仕事をしよう！と思えた。

―家の仕事が好きだった。時代と共に変わる事を楽しみながら、事業を広げていきたいと思った。

―一度は会社に勤めたけれど、やっぱり家業がしたかった。人と人のコミュニケーションがあるところが魅力だった。

―自分で工夫して利益を上げる。商売って面白い。

―親の大変さを見てたので、やりたくないなあと思っていただけ、専門学校に行ったら、がぜん、やる気が出てきて。今はとても楽しい。

Q 青年部としての夢とか、今後どんなことがしたいですか？

―「瑞穂町」の知名度をアップしたい。

―青年部員をもっと増やして、活発な活動を展開したい。

―仲間同士がお互い切磋琢磨して、経営力の向上を図りたい。

―仲間と一緒に町をイメージアップできる

い。

―同業種、異業種の人とのふれあいがあり、世界が広がっていく。

―やりがいは自分で見つける。でも、苦労は仲間と分かち合える。

―研修会を実施しているが、勉強になる。経営者として向上したい。

―町のイベントに積極的に参加している。みんなが楽しめる企画を考えたりするのは楽しい。子どもの頃楽しかった「どじょうつかみ」、今年もやりたい。

―いい先輩に恵まれているからかな、苦労を苦労と感じない。

事業をやりたい。

―他がやったことがないことをやりたい。

―地元の農芸高校とタイアップして商品開発。

―ものづくり、経営のノウハウなど学生に教えていきたい。

―地域資源を活用して、住民や行政が協働で出来る事業がしたい。

―瑞穂で初の水素ステーション。

Q これからどんな瑞穂町になってほしいですか？

―誰もがあいさつの交わりあえるまち。

―静かで落ち着いたまち。

―人がいっぱい来てくれるまち。

―自然がありながら、住んでて便利なまち。住みやすいまち、住みたいまち。

Q 議会に対してのイメージは？

―過去に関わりがなかったので、これといったイメージがなかった。

―今回の事があって、初めてホームページを開いた。思ったより開かれた議会を目指して頑張ってるんだと思った。

Q 最後に一言

―青年部活動をもっと広げたい。45歳までの町内で事業を営んでいる皆さん、ぜひ青年部に入部してください!!

―ご参加いただいた皆様
ご協力ありがとうございました。



左から 榎本竜也さん（榎本工業） 川口益弘さん（川口スタンド） 野田和己さん（日本亭） 栗原秀樹さん（栗原モーターズ） 原島和也さん（原島土建）

